



上海事務所

NCB 海外レポート

『中国社会』 デジタル化最新事情 ③

～デジタル技術を活用した中国の新型コロナ対策～

◇ はじめに

- 世界各地で依然として感染が続く新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）ですが、ここ中国では、デジタル技術を活用した取組みが感染拡大の防止に大きく貢献しています。今回は、中国で実用化されているデジタル技術を活用した新型コロナ対策について紹介します。

◇ 個人の健康状態と行動履歴を一元管理するコロナ対策

- 中国で広く浸透しているのが、「健康コード」と「行程カード」を活用した感染対策です。いずれもスマートフォン（以下、スマホ）で登録を行い、SNS（WeChat）や決済アプリ（Alipay）と連動して、個人の健康状態や行動履歴を把握する仕組みとなっています。
- 「健康コード」は、本人の PCR の検査結果や行動履歴から感染リスクを判定するほか、これまでに受検した PCR 検査の陰性証明書やワクチン接種証明書を確認することができます。一方、「行程カード」は、スマホの GPS 機能から本人の位置情報を記録し、直近 14 日間に滞在した地域を表示します。いずれも感染リスクの高いものから順に 3 段階（赤、黄、緑）で色分けされて、感染リスクに応じて PCR 検査や隔離措置が求められます。
- 「健康コード」もしくは「行程カード」は、公共交通機関やオフィスビル、商業施設等に入入りする際に提示が必要となるため、中国で生活するうえで必要不可欠な存在となっています。



健康コードの画面

画面下のアイコンから PCR 検査やワクチン接種証明書の閲覧が可能となる。



行程カードの画面

画面下には、過去 14 日間に滞在した地域が表示される。



オフィスビル入口の様子

入館時には、行程コードもしくは健康コードの提示が求められる。いずれも緑以外の表示であれば、入館ができないようになっている。

◇ 中国ならではの危機管理

- このように、総人口 14 億人を抱える中国では、デジタル技術を活用して感染者の「早期発見」、「早期報告」、「早期隔離」、「早期治療」を実現し、感染拡大防止に役立っています。
- 日本で同様の対策を行うことは、プライバシー保護の観点から難しいと思われませんが、中国では個よりも全体を優先した強力なトップダウン型の危機管理が実施されています。

2022 年 1 月 14 日作成

西日本シティ銀行 上海駐在員事務所